

主催 公益財団法人小杉放菴記念日光美術館  
日光市 / 日光市教育委員会 / 下野新聞社

休館日 毎週月曜日（祝日は開館し、その翌日を休館）  
開館時間 午前9時30分～午後5時  
（入館は午後4時30分まで）  
入館料 一般730円（650円）、  
大学生510円（460円）、  
高校生以下は無料。

※（ ）内は20名以上の団体割引料金  
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、日光市  
公共施設使用料免除カードの交付を受けた方とその付き添いの方  
1名は無料となります。  
※第3日曜日「家庭の日」（9月19日、10月17日）は、大学生は  
無料となります。  
※新型コロナウイルス感染拡大の状況等により、会期および催し  
物等に変更が生じる場合がございます。ご来館にあたっては、事  
前に当館ホームページ、電話などで開館状況をご確認ください。

# 小杉放菴所蔵名品撰

生誕一四〇年

KOSUGI HOAN  
MUSEUM OF ART,  
NIKKO



小杉放菴記念日光美術館

2021年

9月11日[土] - 11月14日[日]

M. Kosugi  
T. Higashi

生誕一四〇年  
小杉放菴 所蔵名品撰



1

小杉放菴(1881~1964)は今年、生誕140年を迎えます。これを記念して、当館が開館以来収集してきた小杉放菴作品の数々から厳選した逸品をご紹介します。

日光に生まれた小杉放菴は、少年時代に五百城文哉の内弟子となって洋画の基礎を学びました。そして上京後、画塾・不同舎での研鑽、従軍記者としての日露戦争派遣、新聞・雑誌での漫画の仕事といった経験を積み、文部省美術展覧会(文展)で受賞を重ねたことで、新進気鋭の洋画家として注目される存在となりました。

そして、1913(大正2)年から翌年にかけてのヨーロッパ巡遊中、「東洋」に帰るべき道を見出したことは、画家としての価値観を変える大きな出来事となりました。帰国後、横山大観



2

に誘われ、再興された日本美術院に参加して洋画部を牽引。同院脱退後、1922(大正11)年には今も続く洋画団体・春陽会を結成し、リーダー的存在として活躍しました。小杉は、この間に数多くの日本画も描いており、それは、ときに日本美術院の画家たちにも影響を与えたと指摘されるほどの、独学とは思えない質の高さを持っていました。単純に洋画時代、日本画時代と割りきることの出来ない点に、小杉放菴の美術史的な位置づけの難しさがあり、また、魅力が秘められているともいえるでしょう。

今回の展覧会では、こうした小杉放菴の明治・大正期の知られざる逸品から、その代名詞ともいえる昭和期の花鳥画や道釈画の数々により、その魅力をお伝えしたいと思います。



3



4



5



6

開館24年目を迎える当館のコレクションより、小杉放菴の生誕140年を記念し、名品の数々をご紹介します。

[会期中の催し物]

担当学芸員によるギャラリー・トーク

9月11日[土]・10月10日[日]・11月13日[土]

各時間/午前11時~(1時間程度)

ACCESS

◎電車=東武日光駅、J R日光駅から清滝・細尾・中禅寺・湯元、西参道(東照宮)方面行きバス5分。神橋停留所下車徒歩3分  
◎車=日光宇都宮道路・日光インターから約2km  
◎駐車場=併設の市営駐車場をご利用ください。  
美術館受付で駐車券を提示していただくと、1時間まで無料となります。

〒321-1431 栃木県日光市市内2388-3  
Tel.0288-50-1200 Fax.0288-50-1201  
www.khmoan.jp

小杉放菴記念日光美術館



- 1.《煉丹》  
1917年
- 2.《墨竹蠶鄉図》  
1930年代前半
- 3.《飲馬》  
1914年
- 4.《黄初平》  
1915年
- 5.《漁夫》  
1919年頃
- 6.《春鳥》  
1940年頃

表.《神橋》  
1901年頃

すべて小杉放菴記念日光美術館蔵